

### 3 新潟市秋葉区舟戸遺跡出土遺物

**報告に至る経緯** 文化財センターでは、平成23年度から平成25年度にかけて古津八幡山古墳の確認調査を行った。調査に先立ち、周辺の前古墳時代の遺跡から出土した遺物を実見する機会を得たが、舟戸遺跡の確認調査及び工事立会で出土した遺物中に良好な遺存をなすものや、本調査出土資料を補完する遺物が存在することを確認した。これら資料について、今回報告を行う。

**遺跡の概要** 舟戸遺跡は新津丘陵西側の裾部から広がる沖積地にあり、旧大通川の扇状地から自然堤防上の微高地（現標高約5～6m）に立地する。遺跡範囲は、北東から南西方向に約800m、北西から南東方向に最も距離のあるところで約480m、推定面積約240,000㎡である。現在、大部分は宅地であるが遺跡西側は水田と畑が広がっている。昭和53（1978）年国土地理院発行の土地利用図を見ると、遺跡の大半は水田で占められるが、古津駅のすぐ南側から西へ向かって畑・果樹園が列状にのびている（図6）。

平成5年、社屋建設に伴い新津市教育委員会による本発掘調査（1993004）が470㎡を対象に行われた。弥生時代から平安時代の遺物が出土したが、大半は古墳時代中期の遺物であった。発掘面積が狭いにもかかわらず出土土器は破片も含め3万点以上と多量なことから、一定期間人々が定住した集落と考えられている〔川上1995〕。

遺構は、古墳時代中期の竪穴住居や掘立柱建物、杭列などが確認された。南東方向約700mの丘陵上に臨むことのできる古津八幡山古墳と時期が重複することから関連が注目されている。

**調査の概要** 今回報告する調査は下記の2件である。

#### (1) 確認調査（1998145）

**所在地** 新潟市秋葉区古津字北郷2179番地外

**調査の原因** 土地区画整理事業

**調査期間** 平成11年3月12日～3月24日

**調査面積** 334.8㎡

**調査担当** 渡邊朋和

**処置** 工事中止

調査場所は遺跡の南西側に位置する。計62か所のトレンチ調査が行われた（図1）。遺物包含層はⅢ・Ⅳ・Ⅴ層で、Ⅲ層からは古墳時代の土器とともに平安時代の遺物が、Ⅳ・Ⅴ層からは弥生時代・古墳時代の遺物が出土した（表1）。遺構はⅣ層（上層）とⅥ層（下層）で確認されている。各遺物包含層の出土遺物の内容から、下層は弥生または古墳時代の遺構、上層は古墳または平安時代の遺構と捉え得る。

南北方向の土層柱状図（図2・3）のⅥ層の標高をみると、10・14T付近で最も高いこと、23・28T付近も比較的高いこと、10・14T付近から4・6Tなど南に向かって地形が下がることなどがうかがえる。なお、確認調査区のうち最も標高の高い10・14T付近から南東約100mには、1993年に本調査（1993004）が行われた調査区が存在する。10・14T付近における東西方向のⅥ層標高は大きな高低差は認められず（図4・5）、東西方向に走る微高地の存在が示唆される。前述の土地利用図（図6）における畑などの分布がこの微高地を反映している可能性がある。

#### (2) 工事立会（2009146）

**所在地** 新潟市秋葉区古津2251番地外

**調査の原因** 水道管敷設工事

**調査期間** 平成21年9月8日～10月21日

**調査面積** 3.0㎡（調査対象面積481.5㎡）

**調査担当** 今井さやか

**処置** 工事立会

水道管敷設工事に伴い、遺跡の南北方向（図1の点線部分）約450mにかけて工事立会が行われた。

**報告遺物** 1～4が確認調査、5～13が工事立会出土遺物である。

**確認調査（1998145）** 1が20T、2が28TV層、3・4が29T出土遺物である。

1は壺である。1aと1bは胎土や調整などから同一個体と判断されるが接合しない。体部中位に最大径を持ち、比較的張る体部から短い口縁部が外反する。口縁端部は丸く収める。体部外面の調整はハケメのち一部ヘラミガキである。内面は体部でヘラナデ、底部付近でハケメが認められるほか、粘土紐の接合痕を残す。2は小形の直口壺である。体部外面は粗いヘラミガキが認められる。体部内面には粘土紐接合痕が巡る。3は有段口縁の鉢。口縁・体部の内外面ともに比較的丁寧なヘラミガキが施される。4は有段口縁の甕。頸部外面にハケメが認められる。

**工事立会（2009146）** 5～8が図1△で示したA地点の表土下1.7m、9が同B地点の表土下1.8m、10が同C地点表土下1.4m、11～13が同D地点表土下1.8mでの出土である。なお、表土下約1mは道路の盛土分である。

5は小形の甕。体部外面はハケメで、外面は口縁部から体部にかけてススが付着する。6は有段口縁疑凹線甕。7・8は有段口縁甕である。8は7に比べシャープな作りで、口縁部内面に指頭圧痕が認められる。

9は有段口縁甕で、外面は口縁部から頸部にかけてススが付着する。